

かえる便り 30年度26号

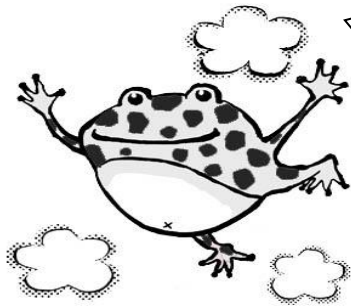
平成31年1月28日

大寒の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

先日はお忙しい中、保護者会並びに懇親会に多数のご出席を賜り大変ありがとうございました。新役員が決まり新しい執行部で運営していただくこととなりますが、これからも部員達のために温かいサポートをお願い致します。

私たちが日常生活でストレスを感じるのは、ほとんど人間関係に起因しています。親子や兄弟間で問題がこじれたら大変ですよ。何故なら、他人であれば知らないふりをする事が出来るけれど、血が繋がっているとその問題を避けて通すことは出来ません。組織内で起きたときも同様です。みな他人だけれど、組織をよくするためにその問題を避けて通ることは出来ないからです。

学校は子供を伸ばし社会に通用する人材を育成するために存在すると思いますが、生徒自身も責任と義務を果たす努力をすることが必要です。指導する側に求められていることは、確かな能力は勿論ですが観察力が重要だと考えます。観察力を高め部員達の心技体を伸ばすと同時に、責任と義務を果たす心を涵養したいと思います。



先日の練習試合において、仲間を助けるプレーをした部員がいます。守りの原則を考えた当然のプレーです。そのことについて間接的に質問をしたところ、誰もそのプレーに気がついていませんでした。勝利するために、仲間と協力し助け合うことが必要ですが、残念ながら助ける声やプレーが少ない…。

「北京籠城の功績の半ばは、とくに勇敢な日本将兵に帰すべきものである」

「日本軍を指揮した柴中佐は、籠城中のどの士官よりも有能で経験豊かであったばかりか、誰からも好かれ、尊敬された。当時、日本人とつきあう欧米人はほとんどいなかったが、この籠城を通じてそれが変わった。日本人の姿が模範生として、皆の目に映るようになった。日本人の勇気、信頼性、そして明朗さは、籠城者一同の賞賛の的になった。籠城に関する数多い記録の中で、直接的にも間接的にも、一言の非難を浴びていないのは、日本人だけである」

これは、1900年に起きた義和団事件後にイギリス公使（総指揮官）マクドナルドと特派員フレミングが語ったものです。事件後に略奪行為等を各国の兵士が行っている中、日本兵だけは規律を守っていたそうです。日英同盟を最初に提唱したのは、このマクドナルド外交官らしいです。彼らの誠意ある行動が、有色人種を見下していた白人達の心を動かしたと言えるのではないのでしょうか。

当たり前のことを当たり前のように指導していきたいし、当然のことが出来るようになってほしいからこそ、“是々非々”を貫きたいと思います。